

十神山



# 会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064  
島根県安来市古川町 534  
TEL 0854-28-9988  
FAX 0854-28-9393  
https://www.y-hozon.com/  
E-mail:admin@y-hozon.com

## 私と安来節

— 令和 7 年度 昇格者 —

### 安来節が つないだご縁



准名人  
石本紀美子  
(益田支部)

令和七年度安来節保存会の推挙をいただき、唄准名人の栄に浴しました。会長様をはじめ今まで指導をいただきました先生方、支部の皆様、関係者の皆様には感

謝の念に堪えません。

私が安来節を始めたきっかけは、嫁いだ先で知り合いもなく寂しい毎日を送っていた時、「安来節をやっているから来んかね」との近所の人のお誘いの一言でした。楽しく学ばせていただいたおかげで、昭和五十八年に師範昇格、平成十二年優勝大会にて唄優勝、翌年、大師範に昇格させていただきました。その後、安来節博多座公演、NHKホールでの民謡フェスティバル出演など多くの機会をいただきました。安来節が生活の一部となっていた毎日でしたが、平成十六年交通事故により入院とリハビリの毎日へと変わりました。当時の起き上がることもままならず、好きな安来節ももうこれまでかと諦めていました。ところがある日、同室の方の「石本さん、安来節唄つてよ」という声がかきつけとなり、リハビリを兼ねて毎晩就寝前にベッドで「出雲名物…」を同室の方達に向け、子守唄代わりに唄っていました。退院してようやく日常生活が戻りかけた時、原淳文先生監修のDVD収録のお誘いを受け、当時、自分として精一杯唄わせていただきました。以前のように高い声で唄えず悩んでいた折、ピアノニストの北方先生と出会い、唄の

さん民謡を覚えて島根に帰って教えたかと思っていましが、ご縁があり名古屋で結婚し、定住することになりました。名古屋へ行った当初、まず驚いたのはどの民謡発表会や大会、東京である全国大会でさえも、全く安来節が唄われていないことでした。ある時、島根出身なら唄ってくれないかと言われて安来節を唄うと「聞き慣れたのと」ちがうね」と言われ、これには大変な衝撃を受けました。また安来節を習いたいと言われ、まずは手拍子で教えようとしたら、「バカにして」と。その時は、やはり地元から遠く離れたこの地で安来節を教えるのは無理だと絶望しました。こうして何度も心折れそうになりながらも、東海支部が発足して来年は二十周年を迎えます。少しづつですが本場の安来節がこの名古屋でも理解され、受け入れられる

歌詞の意味や表現を大切に唄うことを学び、「低くても私の想いの唄を聴いてもらえればいいのだ」と思えるようになりました。夢中になれる安来節に出合えたこと、多くの大切な先輩方や仲間に出会えたこと、自分の声で唄える今に感謝しています。今日のよき日を契機にこれからも支部の皆様方とともに安来節保存会の発展に微力を尽くしてまいります。最後になりましたが、今日までご指導いただきました先生方に改めて御礼を申し上げます。

### 安来節と あゆんだ半世紀



絃 大師範  
安達富美子  
(本部道場)

「子守唄から安来節」と歌詞にもありますが、歌好きだった母親の影響もあって、幼い頃から安来節に親しんで参りました。安来節保存会に入会したのは、私が十六歳になったばかりの春のこと、早いもので、それから四十七年もの長い年月が経ちました。就職や結婚、子育てに親の介護も重なって、何度か練習から遠のいた時期がありましたが、その度に、根気強く声をかけてくださったのが、師匠の三代目安達順吉先生でした。先生のおかげで今の私があるのだと心から感謝しています。また、歌詞のひとつひとつにも唄うたびに励まされ、勇気づけられました。

大師範の唄練習を始めた頃、自己流で楽しく唄っていた母が昔よく唄っていた歌詞を見つければ、ビックリしました。彼女の青春時代も安来節と共にあったのだと気づかされ、思わず胸が熱くなったのを覚えています。それと同時に決して絶やしてはいけないし、伝承していくのは大事なことだと感じた時もありました。

唄 大師範昇格から十二年。この度、絃 大師範に昇格させていただきました。身の引き締まる思いです。これまで支えてくださった方々には感謝しかありません。まだまだ未熟な私ですが、肩の力を抜き、聴いてくださる方も自分自身も楽しめるよう練習に励みたいと思います。

最近見つけた安来節の本で、その歴史にふれ、改めて感動しました。いつか自分の言葉で周りの方々に話せるようになりたいと思っています。六十年代、まだまだこれからだ！と自分に言い聞かせ、一つずつ夢を叶えていきたいと思えます。

### 後世につなぐ 安来節



唄 准名人  
中村瑞子  
(東海支部長)

安来節保存会に入会して五十年の節目の年に、唄准名人に昇格させていただくことができました。のも、ひとえに私の古巣湖陵支部、五條家芸能社、そして名古屋では中村民謡会、東海島根県人会、安来節保存会東海支部の皆様他、私に関わるすべての皆様の多大なるご支援とご指導の賜物と、心より感謝を申し上げます。私が安来節と出合ったのは、幼稚園の頃、米穀店を営んでいた父

が趣味として始めたことがきっかけでした。自分から行きたいと言って教室に通うようになり、当時毎年二日間朝から夜遅くまでの優勝大会にも父と二人で欠かさず通っていました。高校まではピアノも習っており、将来は安来節が唄える音楽の先生になりたいと思いつ、出雲高校に進学しました。ですが高校二年生の時、安来節の唄、絃鼓が師範に昇格したことで、受審はなくなり優勝大会の予選に出たところを通るはずもなく目標を失い、他県の民謡に興味を湧かしました。中でも津軽民謡を唄ってみました。中でも津軽民謡を見つかりませんでした。両親は大学への進学を勧めましたが、私の民謡を学びたいという意思は固かったため、父が尊敬していた野坂茂男先生に相談し、その伝手で名古屋へ内弟子修行に行くことになりました。たく

さん民謡を覚えて島根に帰って教えたかと思っていましが、ご縁があり名古屋で結婚し、定住することになりました。名古屋へ行った当初、まず驚いたのはどの民謡発表会や大会、東京である全国大会でさえも、全く安来節が唄われていないことでした。ある時、島根出身なら唄ってくれないかと言われて安来節を唄うと「聞き慣れたのと」ちがうね」と言われ、これには大変な衝撃を受けました。また安来節を習いたいと言われ、まずは手拍子で教えようとしたら、「バカにして」と。その時は、やはり地元から遠く離れたこの地で安来節を教えるのは無理だと絶望しました。こうして何度も心折れそうになりながらも、東海支部が発足して来年は二十周年を迎えます。少しづつですが本場の安来節がこの名古屋でも理解され、受け入れられる

ようになって来た実感しています。私は教えることが好きです。子供の頃に覚えたことは忘れない自分の経験から、特に子供に力を入れて教えて来ましたが、民謡を習い続けたことがその子の人生に何かしら役に立てばと思いつ、日々お稽古しています。受験や就活などで一時休会しても、今また戻って来てくれることを大変嬉しく思っています。そしてこの子供達が、日本の伝統文化の一つである民謡を後世に唄いつないでくれることを願い、期待しています。私も今後准名人の名に恥じぬよう自己研鑽に努め、先人達から受け継いだ安来節を、伝承して参りたいと存じますので、皆様方のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

# 楽しみの 安来節人生



絃 大師範  
岩佐勝雄  
(本部道場)

この度本部道場から推薦いただき、保存会より絃大師範に昇格させていただきます。

伝統ある安来節を学ぶ私にとつて、今は亡き二代目渡部直吉先生、そして渡部弘充先生に深く感謝の気持ちと共に、本部道場の先輩の方々のご支援のおかげと厚く御礼を申しあげます。

今、入会当時を振り返ってみますと、私は安来の山間部に住居があり、通勤路近くにお住まいの音吉先生宅で学ぶ時間は、とても楽しみの特別なひとときでした。

特に師範に合格を報告した日に、奥様が一緒に出迎えてくださり、とても喜んでいただいたことが今でも鮮明に心に浮かんできます。二味線は唄の伴奏だから弾みのよい弾き方をしなさい」と口癖のように言われ、音吉流の弾き方にとっても興味を持つことができた。また渡部弘充先生には数多くの弾き方を学ぶことができた。

安来節はお祝いの席やイベントなど人の心に喜びや楽しさを伝えるものと思っています。「三味の音色は千両のあたいたい唄は万両の安来節」の歌詞のごとく、唄の伴奏としてその心を忘れず努力を重ね、唄ってくださる方に少しでも良くなつたと励ましていただけると、頑張りたいと思っています。

幼少からの安来節は、地域のお祭り等があると、手拍子で唄われていました。そして安来拳などで大変盛り上がりつつあったことを思い出します。

平成十四年に保存会に入会して

# これから 安来節



鼓 大師範  
安達英三  
(広島東支部長)

本年の唄い初め会に於いて、鼓大師範に昇格させていただきました。

鼓を始めしたのは、唄が准師範、絃が三段の平成二年でした。唄、絃に加えて鼓は必須の種目と考えました。当時、広島東支部の高見政子先生のもとで指導を受けました。まだ道具を持たない私に、大事な鼓を「これを叩いてみたら」と惜しげもなく貸していただきました。きつかけをいただいた高見先生、また折に触れ、ご指導いただいた原 文男先生、共に練習に励んだ支部の皆様へ深く感

謝申し上げます。

からは、三味線の間の取り方、前奏と間奏の弾き方に魅力を感じ、現在は全国から観光などで島根を訪れ、宿泊されるゲストハウス型温泉旅館に勤務していますが、交流の場で安来節の弾き語りや銭太鼓を披露することがあります。

安来節は歌詞も沢山ありますので、宿泊者の記念日や近況に合わせ、祝い唄や思い出になるような歌詞を選定し、楽しみの時間を共有しています。

安来節は、早く唄えば活気に満ち、ゆっくり唄えば情緒豊かな唄になります。唄に合わせた伴奏に、更に努めていけたらと思っております。

一般の方から「師範ですか、すごいですね」と言われたことがありますが、自分がまだまだ未熟と思っただけに、今後更に精進を重ね、この安来節の魅力は次の世代に引き継ぐため、家族友人等を含めた会員と共に稽古に励み、微力ではありますが保存会の更なる発展に寄与できたらと思っています。

# その瞬間が あるのか、ないのか？



鼓 大師範  
三代目 福太郎  
(加茂支部)

この度、安来節保存会加茂支部からご推挙いただき、鼓 大師範に昇格させていただきました。

初めとする加茂支部の皆様、諸先生方、仲間達、生徒さん、家族の支えがあつてこそと、心より感謝しております。

突然ですが、こう見えて私はスポーツをするのも、見るのも大好きで、野球チームに入ったり、二

十代の頃には、自分でサッカーチームをつくって大会に出たり、そんな私ですから、スポーツアニメも大好きです。

ですが、遺品の中に数本のカセットテープ。聴いてみると、父が若かりし頃練習しているものが、迫りし頃練習しているものが、三味線に至っては、しびれる程キレがあるうえに深い音色。これを追いつきたい！どうしたらいいんだろうか？安来節の魅力にハマったのは間違いなくこの時でした。

この先どうとか、大会で勝ちたいとか一先ずおいといて、楽しいと思える瞬間があつたか、なかったか。もしその瞬間に出会ったら、それがバレーにはまる時だ！というシーンがあります。これを自分の安来節に置き換えてみると、私にはその瞬間、すなわち『はまるきっかけ』がちゃんとありました。それは、当時二十六歳でなんとなくやっていた、やらされていた安来節。父が亡くなったタイミングでやめようかとも思ったので

でした。

# 安来節の 楽しみ方



踊 大師範  
宇川 普  
(大江戸支部)

二年前の初夏、一本の電話が入りました。「どじょうすくい踊りをやってみたいのですが…」

それでは見学に来てみてください。との事から入門された方がおられます。保健師の資格を持ち、現在はデイサービスに勤務し、毎年十二月頃に職員が利用者さんに何かを披露する会があり、そこで楽しんでもらいたいとの思いから、踊りを習いたいとの理由でした。それから、毎月二、三回来て、腰を振って歩くこと、踊る順番を覚えること、所作に表情をつけること等に對して、「難しい、難しい」が口癖

入りました。

入会資格審査ではなく、踊る場面や観賞できる機会があればよい」とのことでした。この方は、昭和九年八月生まれの九十歳、まだまだ元気で今年も目標を立てておられ、私もこういう風に歳を重ねていけたらと思いました。

最近、退職後の楽しみで始められ、ボランティア活動や地域貢献の目的で習いに来られる方が多いです。安来節の魅力を広く伝えていくということは、こういう形でも良いのかなと考えさせられます。

その一歩となるのが、令和七年一月十三日の唄い初め会にて踊 大師範に昇格させていただきましたことです。踊 名人 宇川勤先生はじめ支部長や周りの方々の励ましが心強く、感謝いたします。また、そばで支えてくれた妻の 宇川清子の後押しがあったからです。

これからは安来節を後世に伝えていくという使命感をもって精進して参る所存です。

郷愁と共に



踊 大師範 一字川ゆき (本部道場)



祖母の話から始めよう。旧能義郡(現・安来市) 伯太町東母里、現在の伯太庁舎通りに祖母の小さな住居があった。軍服仕立てから戦後は洋裁に転じ、地域で「ミシン屋さん」と呼ばれて生計を立てていた。訳あってここに身を寄せること数年間、私には鮮烈な記憶が残っている。私が母里小学校三年生当時の秋、あれは何の催しだったのだろう。稲刈りが済んだ頃、町民が手に手に座布団と弁当を携えて伯太中学校の体育館に集い、演芸会が行われた。舞台上では中学校ブラスバンド部の演奏を皮切りに手品や即興絵描きなどの出し物が続き、観客は周囲と談笑しながら楽しんでた。やがて登場したのは、緋の着物に手拭いを深く深く姉さん被りにした人物。顔は見えない。朗々と唄われる安来節。その正体はなんと男性であった。「あのさんは、がいに(とても) 恥ずかしがりだけん、あげして顔を隠しちゃんなあ」大人の会話を真に受けて、子ども心に恥ずかしさに共感し、同情心も抱いたのだが、今なら分かる。恥ずかしがりどころか、中々の目立ちたがり屋さんに違いない。彼の狙い通り会場は大いに沸いた。どじょうすくいも見た。遠い将来、自分も踊ることになるとは知らずに。トリは圧巻の銭太鼓。揃いの着物に満面の笑みで力強く賑やかに打ち鳴らす様は実に見事であった。いつも親しく会っている近所の小母様方が、見違えるほど華やかでスター然と輝いて映る。「おとなしくせよ」と与えられていた菓子に手を付ける気も失せて舞台に釘付けであった。

会員の声コーナー

「出雲街道民謡交流会」の活動を紹介します



出雲街道民謡交流会 主宰 渡部孝夫

覚えにくい長い名前です。以下交流会と書きます。交流会は2012年にできました。保存会は2011年に百年の記念事業をしましたので、これを機会に安来節を見つめなおしてみることになりました。この頃保存会員は3700名あまり

でしたが、本日もでもありませんがそれでも会員数は減少傾向です。減少する原因とこれからの安来節を考えたのが交流会を発足したきっかけです。手始めに一緒になって安来節を考える同志をつくることです。次は交流会の目的を表示しました。①元気がいい安来節。②スターが誕生する会。③安来節の研究。の項目を柱にしました。交流会は、毎年発表会を開き舞台芸を鍛えました。そして交流会の目的を広げるため平成25年会報第1号を発行しました。会報はのちに「かわら版」と改称して毎月発行し現在75号になります。(読者103名) 安来節の成り立ちや先輩芸人さんの苦労、全国に広まった安来節の魅力などについて掲載しています。この内容が好評で毎回の

くさん感想をいただいています。「かわら版」の記事が続いているのは、安来節の研究成果として本を出版したからです。平成27年「唄われて100年の魅力」、平成29年「よみがえる安来節」、令和2年「山陰の至宝安来節」令和6年「安来節歳時記」の四冊です。安来節に関係する本は非常に少ないのでたくさんの方に読んでもらっています。交流会事業は続けながら変化していきます。テーマを①歴史を知って安来節に誇りを持つ。②生い立ちを理解し、独自の節、アンコの工夫など先輩の努力を知る。③安来節の特長は、浄瑠璃と浪曲が基礎にあり、これを理解して表現の目標にする。に変更しました。安来節の魅力は自分に語り掛け理解して、人に話さなければ伝わりません。交流会は平成31年から演芸発表会にパネルディスプレイを取り入れ安来節について意見を発表してもらっています。

ます。戸惑いもありましたが今では楽しそうに発表していますから、観客から好評を得ています。意見発表は、指導者に必要な力です。このように活動しながら安来節の広がりや理解を目的に継続しています。本年も二月一日第12回を開きました。交流会の三つのテーマを実現するにはすべての芸に共通する「基礎」の知識と実行が大切であると改めて感じています。出雲街道民謡交流会の名称について 室町時代の永祿九年から上方へ上る街道として使われ、山陰の日本海や中海と宍道湖の産物などを運び、生きたウナギも運んだので「うなぎ街道」とも呼ばれました。人足が唄う民謡も京大阪に運ばれた北前船より古い民謡のある街道が交流会の名称になっています。

支部情報

ボランティア活動に感謝状



大江戸支部長 忍 森 脇

このたび、江東区社会福祉協議会60周年記念式典において、大江戸支部銭太鼓同好会が、20年以上にわたるボランティア活動に対し感謝状を授与されました。

児童・障害・特老・デイサービス、公私の施設へ今も続いています。振り返れば、あの時の子ども達も大きくなったでしょう！

また、高齢の方々も、お元気で居られるでしょうか？演芸を楽しんで頂いた多くの方々へ感謝です。

同好会の面々も高齢になりましたが、まだまだ依頼の続く限り安来節を主に『ボランティア活動』頑張りたいと思っています。



「銭太鼓を楽しむ」安来節保存会・同好会 銭太鼓の巧みなパフォーマンス



感謝状

銭太鼓同好会 殿  
あなたは社会福祉協議会に重要な役割を担って、深く感謝し奉るの精神をもって地域福祉の向上のために多大なご貢献をされました。よってここに深く感謝の意を表します。

令和7年 1月 26日

江東区社会福祉協議会 会長 渡辺 恵司

「NEO (ネオ) 安来節」披露

今年度、安来市で観光庁の補助事業を活用し、安来節をテーマに外国人観光客の誘客につなげる新たな取り組みが行なわれました。この取り組みの中で、「安来節を世界に！」をスローガンに、伝統芸能である「安来節」をプロのクリエイターに依頼し、現代風にアレンジした「ネオ安来節」を創作され、唄い初め会にて披露されました。

安来節の認知度をこれまで以上に高め、後世に伝えていくため、若い世代や外国の方にも安来節を知っていただき、興味を持っていただくきっかけにしたい想いから制作されたものです。曲や振付、衣装には、どじょう揃い踊りの要素や、銭太鼓の動きも取り入れられています。

現在は、安来節保存会や安来市観光協会、市の職員を構成メンバーとする27名で活動していますが、今後は地元のダンスチーム、小中学校や高校などと連携し、活動の輪を広げていければと考えておられるようです。

また、YouTubeの「安来節保存会動画チャンネル」、「安来市動画チャンネル」にて、NEO安来節の【MV】、【ドキュメンタリー映像】が公開中ですので、ぜひご覧ください。



令和7年唄い初め会

事務局からのお知らせ

# 支部PR動画・画像(写真)募集!

安来節保存会は、年々、会員が減少しております。  
 会員獲得を目的とし、各支部にて「PR動画」か「画像(写真)」を撮影(既存の物を提出)していただき、その動画(画像)をYouTubeの「安来節保存会動画チャンネル」にて、たくさんの方々にご紹介したいと考えております。

つきましては、下記要領にて募集いたしますので、ご応募をお待ちしております。

記

## 1. 動画の場合

**募集期間** 常 時

**提出方法** MP 4 形式でメール送信もしくはUSBメモリかSDカードで提出してください。

**動画時間** 1 支部 3 分以内

**動画内容** 各支部の紹介等

(例：安来節保存会の〇〇支部です。〇〇支部は、島根県安来市近郊で月に4回「民謡安来節」教室を開催しております。安来節には、唄、三味線、鼓、どじょうすくい踊り、銭太鼓があり、好きなものを選んで、やってみませんか。運動不足解消、ストレス発散などにも役立ちますよ。詳しくは、安来節保存会までお問い合わせください。)

※活動内容などはテロップにて挿入することも出来ますので、お気軽にご相談ください。

《注意事項》笑顔で楽しい雰囲気撮影してください。  
 動画内にて支部の連絡先など個人情報は、言わないでください。

## 2. 画像(写真)の場合

**募集期間** 常 時

**提出方法** メールで送信もしくは写真を提出してください。

**画像枚数** 1 支部 4 ~ 5 枚

**画像内容** 各支部での楽しい雰囲気の画像(例：発表会の時、練習風景、懇談時などなど)

※東北支部、東京支部、広島東支部は、すでに動画投稿サイト「YouTube」内の安来節保存会動画チャンネルにてご覧になれます。

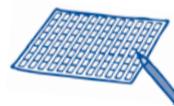
## 令和7年「唄い初め会」支部競演成績

安来市長賞	松江支部
安来市議会議長賞	加茂支部
安来市観光協会会長賞	神門支部
安来商工会議所会頭賞	湖陵支部
BSS山陰放送賞	斐川支部
足立美術館賞	平田支部
家納喜賞	宮島支部
スポーツショップまつもと賞	尾高支部

## 役員変更のお知らせ

このたび「資格審査委員会」において、新たに副資格審査長として濱崎正人さんが選任されましたので、お知らせいたします。

## 会報「安来節」に原稿をお寄せください。



4月と12月に発刊する会報「安来節」に会員の皆様のご寄稿を常時募集しております。

「安来節との出会いや思い」、「支部の活動や発表会」、「安来節保存会への思い」などなど題は自由です。

いずれも600字~1,000字程度で寄稿者の顔写真(1年以内の物で使用後は返却します)も併せて送ってください。

特に若い方からのご寄稿をお待ちしております。「安来節を始めたきっかけ」、「安来節の楽しさ」、「今後の目標」、「安来節はこうしたらもっと良くなる、面白い」などなど、今後を担う若い方の主張は大歓迎です。

※応募多数の場合は、繰り越す事もございますので、あらかじめご了承ください。

安来節のしおり(令和6年度版)に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

【訂正】 P124 松江支部  
 (誤) ◆准師範 銭太鼓 大場久美子 (正) ◆准師範 銭太鼓 大場久子

感動を呼ぶ 音色と響き 丹念な加工 調整 仕上げ

# 省仁ホ三味線

製造・販売/修理 三味線・鼈甲撥・尺八・太鼓

〒240-0022 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西久保町197-1  
 TEL 090(5782)7408 FAX 045(741)4796

HP <http://www.syamisen.com/>